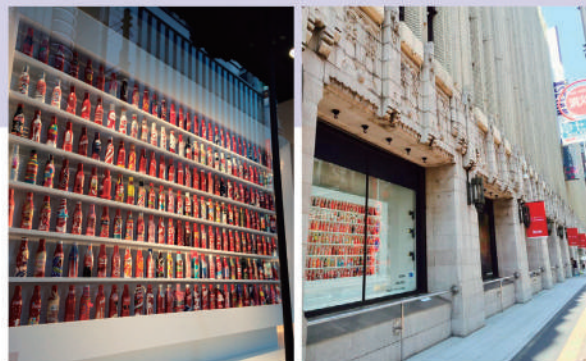




プライベート・パブリッシング in 中井

専任講師の田島悠史さんを中心としたプロジェクト。目玉作品の「developments」は、中井駅前の「フォトクワイエット」の店頭で設置したカメラで撮影した人の顔を素材に、お店の壁面にプロジェクトマップとして投影。中井を訪れた人の顔が色彩・模様となって刻々と変化していく。



コカ・コーラ 三越伊勢丹 「アートスリムボトルチャリティ」ディスプレイ

伊勢丹新宿本店で開催された、コカ・コーラガラスボトル誕生100周年記念イベント。著名人が制作したアートボトルの展示とチャリティオークションがメインだが、会期中は地域のアート・デザイン学生たちが制作したボトルが店頭ディスプレイになった。その約半数が宝塚大生。



大ガード下の長い東西通路の壁面を使用した展示スペース、ギャラリオーガード「みるっく」での展示。今回は12星座がテーマ。左上の案内ボードも学生の制作。

みるっく展示 プラネタス —12の星の物語—

プラネタスとは「惑星」の意味。在校生と卒業性有志が参加し、45度傾けた正方形を統一フォーマットとしてそれぞれが自分の星座をテーマに制作。

若者よ、筆を置いて街へ出よう 新宿クリエイターズ・フェスタへの取り組み

絵を描いてモノを作ることが学生の本分。でも、狭い学内にとどまっていたらもったいない。校外へ出て広く一般の人に見てもらえる機会が大切だ。宝塚大学 東京メディア芸術学部では、キャンパスが新宿という地の利を活かし、「新宿クリエイターズ・フェスタ」への参加を通じて、地域への発信に取り組んでいる。

取材協力：宝塚大学 東京メディア芸術学部



海、山、住宅地、新宿の街の異なる4つのジオラマが会場に並び、そこにフィギュアを置いていくと、徐々に賑やかになっていく。女子学生ばかりのチームで、全員ジオラマ作りは初めてだけに、「模型的というよりステージっぽい」発想が面白かったと城芽さん。



会場の説明のボードやアイコンとなるイラストレーションも学生による制作。

新宿夢まち計画 ガチャガチャから広がる タイムスリップの夏

人がいて、街が出来てゆく。「フィギュアを置く」ことを通じて、ちょっと懐かしい昭和レトロ感が漂うジオラマの世界に入り込んでいくコンセプトアート。新宿の街と隣り合う海や山も、遠い夏の記憶を呼び起こす舞台装置だ。



会場に設置されたガチャガチャのカプセルには、フィギュアが1体と顔文字が書かれたフキダシが入っていて、これを好きな場所に置いていく。子どものウケは上々。

型のイベントという提案もされていたという。ジオラマとガチャガチャというのは別の学生のアイデアだそう。制作メンバーは2年生2人、3年生1人、4年生5人の8名。全員女子で、ジオラマ作りは全員初めて。「通常は隣合わない4つのエリアのジオラマが会場内に並ぶコンセプトで、少人数でどこまでリアルに作れるかを追求しまして、そこが大変でした。最初は普通の町並みを考えていましたが、写真展を見に来るのは年配の方が多いということと、ちょっと懐かしい、昭和的な景観を目指しました」（佐藤さん）

「建物はペーパークラフトが得意な子に担当してもらい、ジオラマの景観については私が現場監督みたいな形で仕切らせてもらいました。タイムスリップしたようなレトロっぽいイメージで作っていました」（布施さん）

分担で作業を行う関係で、完成形のイメージが共有しづらい。そこで、キーワードを設定したり、ジオラマごとに色調に統一感を持たせるための使用する色のパレット作りなど、事前準備に時間をかけたという。

学生は全員平成生まれなので、資料探しにも苦労した。昭和の町並みは「ネットに頼りきり」で、ジオラマ作りのサイトもいろいろ参考にした。ガチャのカプセルに入れるフィギュアは、ジオラマ用の未塗装のものを購入し、服装などにバリエーションが出るように着色した。模型店だけで素材を揃えると高くつくので、100均のスポンジなど身の回りのもので安く作る工夫もした。

ジオラマにフィギュアを並べて街が出来ていくコンセプトの展示

「新宿クリエイターズ・フェスタ」は新宿区が主催する地域のアートイベントで、今年で5回目を迎えた。国内外のアーティストによる平面・立体の作品が街を彩り、地域の学生や子どもたちが参加して、新宿駅周辺をはじめとする区内各地で数多くの展示やイベントが行われる。

新宿駅西口にキャンパスを構える宝塚大学 東京メディア芸術学部では、第1回から参加して、作品展示やイベントの実施等の活動を行ってきた。アート・デザインを通じた地域貢献であり、日頃の制作活動の成果を外に見てもらえる絶好の機会でもある。その中のひとつ、「新宿夢まち計画」というイベントを取材した。会場は写真の展示を行っているコミカミノルタプラザのエレベーターホール前。海・山・住宅地、そして新宿の伊勢丹付近をイメージした4つのジオラマがあり、フィギュアが配置されている。来場者はコインを受け取ってジオラマの横に置いてあるガチャガチャを回す。カプセルの中にはフィギュア1体と漫画のフキダシが入っていて、これをジオラマの好きな場所に追加していくとジオラマの街がだんだんと賑やかになっていく趣向だ。

制作運営にあたった学生の代表として佐藤瑛莉さんと布施祥子さん、指導にあたった講師の城芽ハヤトさんにお話を伺った。城芽さんによれば、会場は先に決まっていた、参加